

高山性生物の成り立ちと現状

日時：2018 年 10 月 20 日（土）



午後 1 時 15 分～4 時 15 分

会場：信州大学松本キャンパス全学教育機構 12 番教室

～皆様のご来場をお待ちしております～（聴講無料・申込み不要）

コーディネーター・・・伊藤建夫氏（信州大学名誉教授）

◆基調講演

「北アルプスの生成と地形発達史」…………… 原山 智氏（信州大学名誉教授）

◆事例講演

「ライチョウを取り巻く現状と未来」…………… 堀田昌伸氏（長野県環境保全研究所専門研究員）

「日本産高山植物を用いた分子系統地理学的研究 ―本州中部山岳の系統地理学的重要性について―」…………… 藤井紀行氏（熊本大学大学院准教授）

「高山の水生生物の系統進化」…………… 東城幸治氏（信州大学学術研究院教授）

「高山蝶タカネヒカゲの分子系統とルーツ」… 宇佐美真一氏（信州大学教授）



1. ベニヒカゲ, 2. シコタンソウ, 3. ライチョウ（♂）, 4. 北アルプス蝶ヶ岳のお花畑, 5. 北アルプス槍穂高の峰々, 6. アルプスヤガ, 7. ライチョウ（♀）, 8. 空から見た中央アルプスの山並み, 9. ミヤマシロチョウ

主催：日本鱗翅学会 共催：松本むしの会、信州大学山岳科学研究所

後援：長野県、松本市教育委員会、信州昆虫学会、信州大学自然科学館、
信州大学理学部、青木村信州昆虫資料館、田淵行男記念館